

# 創刊号によせて

学長 菊 池 真 一

東京工芸大学女子短期大学部紀要『飯山論叢』の創刊号が刊行されるのは喜びに堪えない。

この機会に本学の生い立ちについてのべたい。大正十二年関東大震災の年六代目杉浦六右衛門氏の教育に関する熱意から小西写真専門学校が創立された。設立早々大震災で学校の教職員とも苦勞をした。その後名前を東京写真専門学校と変え、写真の芸術と技術の教育を主として来た。多くの写真芸術家や営業写真家が育っていった。第二次大戦に入ると写真芸術は抑圧されて東京写真工業専門学校と呼ばれた時代がある。空襲では又校舎を焼かれて、小西六の研究所の一部であった中野本町（昔は東郷町と云った）の土地を譲りうけて今の短期大学部が新しい学制の下で出来た。小西六の庇護の下にあった本校は一般写真工業、光学工業、印刷業などによって広く後援されることになった。名称も東京写真短期大学（略称写大）となった。

その後、写真製版科が出来、写真と密接な関係にある製版に関する日本でも珍しい学校になった。昭和四十一年厚木市飯山に土地を求めて四年制の工学部が出来て、はじめは写真工学科、印刷工学科（現在の画像工学科）のみであったが、次いで、工業化学科、建築学科、電子工学科が出来た。昭和五十年には名称を東京工芸大学とした。教養の広い工学士を養成するという意味で美学、美術史、哲学など教養課目にも力を入れている。昭和五十二年に大学院修士課程を

つくり、工業化学課程と画像工学課程をもつ。

昭和五十七年に隣接して女子短期大学部をつくった。その課程は文部省管下の単一学科としては、はじめての秘書科である。この大学の中に秘書科をつくるのは教養の高い有能な女性秘書をつくることを目的とする。

新しい秘書科には張切った多くの先生方が着任して教育に研究に励まれている。図書館長上條真一教授の提唱で女子短期大学部の紀要が発行されることになった。新しい大学は教育の外に入試事務、就職事務などがあって多忙であるが、先生方にはその中で秘書学または、その基礎になる教養課目の研究をしていただきたい。そして本紀要をその発表の場として欲しい。本学の秘書科の先生方がこれを一步として最初の学位を取得されたい。

なお、本学は丹沢山塊の山麓、風光明媚な、由緒ある飯山の地にあるを以て、この紀要を『飯山論叢』と命名したものである。